

関東学連・事業部会・資料（8/24・PM4時～）

2024年（令和6年）8/24（土）PM4時～

専修大学・神田校舎・10号館・11階・10111教室

●送別会のあり方の検討

昨秋以来の継続検討事項。

2023年（令和5年）11月19日（日）・関東学連・第3回・理事会

資料

コロナ以前より、3月上旬の送別会は卒業生の出席者は数名～10名程度。男女1・2部の主将は28人。主務や学連役員を含めると卒業生の分母は約50人。事実上10%余りの参加率。だからと言って強制するのも主旨から外れる。事実上、1月の試験後は引越しなどもあり、上京が難しい事態も多々ある。時期の2月への前倒しや、「送別会・兼・新年度会」など主旨変更も検討した方が良いのではないか。
(過去には1月に新年会を開催していた時代もあったが、費用、その他の理由で中止して数十年経過した)

議事録

これを受けて、以下の通り議論があった。

- ・各校の体制交代（主将等の役員交代）の時期に合わせ、前体制の慰労の会とするのが良いのではないか。体制交代はいつなのか。
 - ・体制交代は秋季リーグ戦後が多数。全日学後、全日学選抜後なども少数ある。
 - ・学連の主要大会は全日学選抜で終了し、事業年度も12月で終わる。これを受けて12月開催が望ましいとの意見も複数あった。
 - ・周期的に全日学選抜の主管が回ってくる年の対応
 - ・学連以外の東京選手権予選（12月）全日本選手権（1月）東京選手権本戦（3月）などの大会との兼ね合い
 - ・卒論、卒業試験などとの兼ね合い
 - ・現在、同時開催している関東・第1回理事会や年間優秀選手表彰式との兼ね合い（分離開催の検討）
- など、諸々の事情を考慮し、12月～3月までの間での最も適した時期と会のあり方（送別会なのか体制交代会なのか等）を検討していくこととなった。
- ・今年度に関しては、時期的に従来からの変更は間に合わせないため従来通りの3月の送別会開催とし、1年後に向けて、必要に応じて事業部会なども活用し、検討していくこととなった。

今年、早める可能性があるのであれば、その2～3か月前までには詳細決定が必要。

例：12月開催であれば、9月までに詳細決定。会場確保。10月には開催通知。

11月には出欠取りまとめ。

1・2部校にアンケートを取るなど、「現実的に参加しやすい時期と事業内容」を調査する必要も考えられる。

送別会に関する検討ポイント

- ・ 12月
 - ・ 1月
 - ・ 2月
 - ・ 3月
-
- ・ 全日学選抜を主管する年の12月の可否
 - ・ 東京選手権予選（12月）、全日本選手権（1月）、東京選手権本戦（3月）
 - ・ 卒業論文、卒業試験、引っ越し（退寮）
 - ・ 関東・第1回理事会、年間優秀選手表彰式との合同開催、分離開催

1～2部校28チームだけなので、都合の良い時期のアンケートを取ってみるか？

●年間優秀選手賞のあり方検討

昨秋以来の継続検討事項。

2023年（令和5年）11月19日（日）・関東学連・第3回・理事会

資料

選手相互間の讃え合いと、「次は自分が受賞を」という励みになれば、

との思いで、続けてきた関東学連・年間優秀選手賞であるが、

- ・ 明らかに不真面目な投票が常に一定数ある（特に男子）
- ・ 全日本選手権後に回答してもらうため、結局、印象強い全日本の結果だけの受賞者となることが多い。

全日本の上位者はスケジュールの関係で、学連の試合に出場しない例も多い。

- ・ 集計にそれなりの労力を要するので、「意義」との釣り合いが微妙。
- ・ 送別会と同時に表彰をしてきたが、今回は集計遅延で断念。

来年度から送別会の前倒しなどがあれば、なおさら不可能。

受賞者が卒業生以外であれば春リーグ時などでも良いかもしれないが、タイムリーではない。

などから、中止か継続か、検討が望まれる。

議事録

これを受けて、以下の通り議論があった。

- ・ 投票ではなく、大会の成績に応じたポイント制にした方が良いのではないか
- ・ 年の区切りを全日本選手権でなく、全日学選抜にすることで約2か月のスケジュール前倒しが可能となる。
- ・ 受賞者の特典は現在は名前入りの盾。更なる特典を考えるのも賞のステータス向上に役立つのではないか。
実用的なものや受賞者が望む物が好ましいのではないか。

- ・ 選手間投票ではなく、監督による投票などにする方法も考えられる。
大リーグのMVP選出は記者投票であることなどを参考にする。
- ・ 監督の場合、試合をよく見ていて選手の事情に詳しい人とそうでない人がいるので、適任者の判別が難しい場合も考えられる。
- ・ 今回、中止も、方式の変更も決定できないため、今年度の年間優秀選手賞は従来通りの方式で継続することとなった。1年後に向けて、必要に応じて事業部会なども活用し、検討していくこととなった。

年間優秀選手賞に関する検討ポイント

- ・ 人が選ぶか、自動選出か
- ・ 選手が選ぶことに意義がある
- ・ 監督が選ぶ案
- ・ 自動選出
- ・ 自動計算は既にリーグ戦特別賞算出がある
- ・ 関東の大会を重視するなら関東学生選手権ランクがそのまま
- ・ 配点の振り分けの適否
- ・ 新人戦、全日学、全日学選抜など出場者が限定される大会がある
- ・ 計算の手間
- ・ かつての全日本総合ランクも意義が疑問視され廃止された
- ・ 年間の区切りを「全日本」から年末（「事実上全日学選抜」）に変更する案
- ・ 特典の検討（最も望まれるのは現金）

●リーグ戦試合方式に関する検討

ダブルスの位置など（富永理事提案）

2024年（令和6年）4月27日（土）・関東学連・第2回・理事会

資料

競技の盛り上がりの工夫、観客離れを防ぐ、映像配信をスムーズにする、競技場の利用時間の制約等の理由で対戦時間の短縮が様々なスポーツで実施されています。また、卓球の団体戦ではダブルスを1番手に持ってくる大会がすでに数多くあります。学生リーグ戦でもダブルス戦を1番に持ってくるなどして時間短縮の工夫をする時期に来ていると思います。

まず3部以下から実施し、早い時期に1・2部にも適用する必要があると思います。

●リーグ戦ベンチ入りメンバーを15人から10人程度に減少させても良いのではないかと の提案（エントリー上限は15人のまま）

高宮副理事長案

●新人戦の時期の検討

4月末開催の現状では、3月末に初回エントリーをせざるを得ず、推薦入学（スポーツ推薦・指定校推薦等）の一部の1年生しか申し込み不可。

通常の一般入学の1年生は追加登録しかできない。

追加登録は、組み合わせ上の不利やダブルスのペアリングが不本意化、最終参加数が見込めないなど、選手・運営双方にデメリットがある。

一時期実施したように、5月末までに新人戦、6月末までに関東学生選手権、というように、半月から1か月程度、開催時期を後ろ倒しした方が良いのではないか。

年度最初の大会が新人戦の方が良い、との意見との兼ね合い。

●新人戦の学年制限の検討

1975年頃までは全学年出場可能だった模様。その後、平成2年(1990年)まで15年ほど3年生以上は出場資格なしだった模様。

平成3年(1991年)より15年ぶりに学年規制を撤廃し、全学年出場可能としている。

「新人戦」という名称から、学年規制をした方が良いという意見。

選手の試合機会を増やすために、現行のままで良いという意見。

双方あり。

●リーグ戦個人賞の選考

殊勲賞選考への監督の意向反映の再検討。

監督の意向を聞いておきながら、覆されるのは望ましくない。

- ・監督が自由に選べるようにするか。
- ・関東の意見は聞かないか。
- ・複数の候補者を学連側が提示し、その中から監督が選ぶこととするか。

優秀選手賞は殊勲賞・敢闘賞と同じ選手が選ばれる頻度が高く、

「選ばれる選手が片寄り、受賞者が少ない上、受賞者は複数受賞」という形が多い。

多くの選手に賞が行き渡りやすくするような方策が必要か？

(例：優秀選手賞を殊勲賞・敢闘賞と重複させない、等)

関東学生卓球連盟・年間優秀選手賞・受賞者一覧表

男子

回	年	1位	2位	3位	年
1	H20 (2008)	水谷 隼 (明治大)	水野 祐哉 (明治大)	瀬山 辰男 (中央大)	H20
2	H21 (2009)	水谷 隼 (明治大)	笠原 弘光 (早稲田大)	軽部 隆介 (明治大)	H21
3	H22 (2010)	水谷 隼 (明治大)	笠原 弘光 (早稲田大)	瀬山 辰男 (中央大)	H22
4	H23 (2011)	神 巧也 (明治大)	水谷 隼 (明治大)	笠原 弘光 (早稲田大)	H23
5	H24 (2012)	大島 祐哉 (早稲田大)	平野 友樹 (明治大)	王 凱 (専修大)	H24
6	H25 (2013)	町 飛鳥 (明治大)	丹羽 孝希 (明治大)	有延 大夢 (明治大)	H25
7	H26 (2014)	大島 祐哉 (早稲田大)	神 巧也 (明治大)	森蘭 政崇 (明治大)	H26
8	H27 (2015)	大島 祐哉 (早稲田大)	森蘭 政崇 (明治大)	上村 慶哉 (早稲田大)	H27
9	H28 (2016)	丹羽 孝希 (明治大)	滝澤 拓真 (明治大)	酒井 明日翔 (明治大)	H28
10	H29 (2017)	森蘭 政崇 (明治大)	田添 響 (専修大)	田添 健汰 (専修大)	H29
11	H30 (2018)	及川 瑞基 (専修大)	田添 響 (専修大)	龍崎 東寅 (明治大)	H30
12	R1 (2019)	及川 瑞基 (専修大)	三部 航平 (専修大)	龍崎 東寅 (明治大)	R1
	R2 (2020)	主要大会多数中止のため、選考中止			R2
13	R3 (2021)	戸上 隼輔 (明治大)	宇田 幸矢 (明治大)	浅津 碧利 (中央大)	R3
14	R4 (2022)	戸上 隼輔 (明治大)	小野寺 翔平 (中央大)	濱田 一輝 (早稲田大)	R4
15	R5 (2023)	小林 広夢 (日本大)	戸上 隼輔 (明治大)	伊藤 礼博 (日本大)	R5

女子

回	年	1位	2位	3位	年
1	H20 (2008)	小野 思保 (淑徳大)	梶本麻莉菜 (早稲田大)	山梨 有理 (淑徳大) 杉本 枝穂 (専修大)	H20
2	H21 (2009)	小野 思保 (淑徳大)	山梨 有理 (淑徳大)	石垣 優香 (淑徳大)	H21
3	H22 (2010)	石垣 優香 (淑徳大)	照井 萌美 (早稲田大)	松澤 茉里奈 (淑徳大)	H22
4	H23 (2011)	松澤 茉里奈 (淑徳大)	石垣 優香 (淑徳大)	刘 莉莎 (専修大)	H23
5	H24 (2012)	松澤 茉里奈 (淑徳大)	中島未早希 (早稲田大)	刘 莉莎 (専修大) 丹羽 美里 (淑徳大)	H24
6	H25 (2013)	鈴木 李茄 (専修大)	丹羽 美里 (淑徳大)	松澤 茉里奈 (淑徳大)	H25
7	H26 (2014)	山本 怜 (中央大)	小道野 結 (早稲田大)	丹羽 美里 (淑徳大)	H26
8	H27 (2015)	鈴木 李茄 (専修大)	安藤 みなみ (専修大)	山本 怜 (中央大)	H27
9	H28 (2016)	山本 怜 (中央大)	鈴木 李茄 (専修大) 安藤 みなみ (専修大)	----	H28
10	H29 (2017)	安藤 みなみ (専修大)	阿部 愛莉 (早稲田大)	奥下 茜里 (日本大)	H29
11	H30 (2018)	安藤 みなみ (専修大)	笹尾 明日香 (早稲田大)	森田 彩音 (中央大)	H30
12	R1 (2019)	森田 彩音 (中央大)	木村 香純 (専修大)	鎌田 那美 (早稲田大)	R1
	R2 (2020)	主要大会多数中止のため、選考中止			R2
13	R3 (2021)	笹尾 明日香 (早稲田大)	木村 香純 (専修大)	出澤 杏佳 (専修大)	R3
14	R4 (2022)	黒野 葵衣 (早稲田大)	出澤 杏佳 (専修大)	枝廣 愛 (中央大)	R4
15	R5 (2023)	出澤 杏佳 (専修大)	青井 さくら (筑波大)	枝廣 愛 (中央大)	R5

2024年(令和6年度) 関東学生卓球連盟 組織図

令和6年4月

部・委員会名	委員長	副委員長	委員		担当幹事
			委員長	委員	
財務本部	恒川 明久	板垣 賢一	大谷 泰平		
	高宮 啓	本橋 道直	太田 秀明 菊地 靖子 井関 律人		
強化本部	氏田 知孝	兼吉 道策	岩村 健司 魚住 翔		
	江尻 雄一	矢島 淑雄	荒井 咲季		
総務本部	人見 剛	温田 哲亮	鈴木 美桜	※三浦 弘子	
	多賀 康之	富永 忠男			

技術員会	
男子	女子
辻 亮晴 4年 川北 帆香 4年 中央大 4年	平賀 龍生 4年 林 美都 4年 日本体育大 4年
荒井 和也 4年 出澤 杏佳 4年 専修大 4年	野田 颯太 4年 前田 愛佳 4年 日本大 4年
奥住 裕太 4年 杉田 陽南 4年 早稲田大 4年	小松 隼大 4年 青井 さくら 2年 筑波大 2年
三浦 裕大 4年 森下 愛菜 4年 東洋大 4年	高橋 天馬 4年 遠藤 優菜 4年 大正大 4年
立麻 葵斗 4年 日本体育大 4年 青山学院大 4年	渡辺 凱 4年 鶴津 萌々子 4年 國學院大 4年
坂本 椋 4年 武川 遥夏 4年 東京経済大 4年	向山 陽希 4年 川村 碧子 2年 順天堂大 2年
柴谷 悠寿 4年 阿部 凜月 4年 東京女子体育大 4年	武川 司紗 3年 東京経済大 3年

代議員会	
幹事会	
理事 幹事長 眞木 七夕佳 3年 日本体育大 3年	副幹事長 山田 大吾 4年 日本大 4年
理事 副幹事長 中村 光 2年 専修大 2年	理事 会計 米田 裕哉 3年 明治大 3年
理事 幹事 山崎 響己 2年 中央大 2年	理事 幹事 五十嵐みゆき 3年 日本大 3年
理事 幹事 岩瀬 裕大 4年 中央大 4年	理事 幹事 松山 順英 4年 駒澤大 4年
理事 幹事 岡村 香苗 3年 東洋大 3年	理事 幹事 永井 龍之介 2年 早稲田大 2年
理事 幹事 江原 翔真 3年 大正大 3年	

※10人までが理事。

